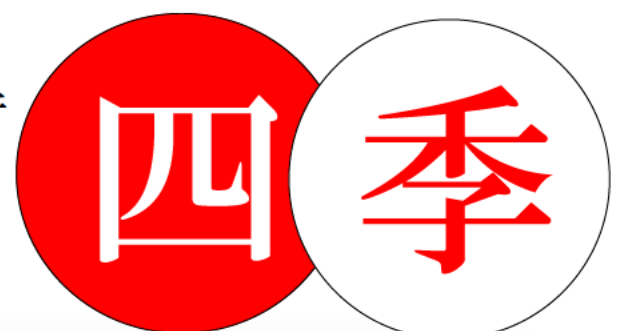




小田原支部教宣部発行
2024.01.04

新年号



全印刷局労働組合小田原支部
執行委員長 山口 博幸

新年あけましておめでとうございます。

2024年の新春を迎え、組合員並びにご家族
のご健勝とご発展をお祈り申し上げますと共に、
小田原支部の活動に対しましてご理解とご協力
に感謝申し上げます。

昨年、5月8日以降は「ウィズコロナ」を前提に生活様式も正常化となるなか、小田原支部の取り組みについても、2024春闘一斉職場集会より集合型に戻しつつ、納涼祭、分会長・支部委員一泊学習会等、コロナ禍以前の活動に戻すことができました。組合員皆様のご理解・ご協力に改めて感謝申し上げます。

今年は、いよいよF券が7月3日に発行されることとなります。2019年4月の麻生財務大臣による改刷発表以降、様々な実験や検証を繰り返しながら、2022年3月よりF券製造に入りましたが想定し得なかった課題が各工程において確認されるなか、製造現場ではこの間培ってきた知識等により、様々な確認や検証しながら製造して頂き、品質管理・保証体制の徹底も図り特別対応や超過勤務等、組合員のご理解・ご協力により、この間も日本銀行へ滞りなく納入をおこなっています。

引き続き、製造現場を中心に、超過勤務や休日出勤等がある状況ではございますが、組合員皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

一方、日本銀行券を取り巻く情勢としては、政府が推進するデジタル化・キャッシュレス化の進展により、経済産業省によれば、キャッシュレス決済の割合が2022年度には36%となっており、政府が掲げている2025年には、40%という目標達成が見えてきている状況です。また、造幣局では、硬貨の製造枚数は全体で5億8600万枚と、造幣局が現在の形となった03年度以降で最少となっており、2023年度は前年度実績から4174万8000枚減で、2年連続で最少を更新しています。キャッシュレス決済の普及などを背景に硬貨の流通は減っており、製造枚数の減少が続いている状況にあります。

このようななか、今年度の日本銀行券納入量も当初見込みの32億枚から30.3億枚と減少している厳しい状況となっています。減少要因としては、千円券の市場での流通量がそこまでなかったことで、30.3億枚になったと言われております。

F券については、発行以降数年間は、ある程度受注量が確保されると想定されますが、キャッシュレス化が進むことで厳しい状況にはかわりないかと考えています。労働組合としても、将来を見据えて安定した事業基盤を構築していくためにも、ベース・レジストリやCBCD等、新規事業に取り組んでいくことが重要です。

日本の経済状況は、エネルギー価格や食料品等の生活必需品において物価高が続いており、昨年の春闘では30年ぶりに高水準のベースアップはあったものの、物価の変動を加味した実質賃金はマイナスが続き、家計の苦しい状況が続いているのが現状です。

昨年の春闘では「組合員の基準内賃金を3%以上引き上げること」と併せて、改刷に伴い日本銀行への納入を確実にこなっていることを踏まえ、当局に対して「組合員の努力と協力に報いる措置」を年間一時金要求の中で交渉し進めてきました。結果として、ベースアップ2.05%額にして、7,409円の原資をもって引上げることで受諾してきました。また、一時金についても、「組合員の努力と協力に報いる措置」を夏期一時金で0.1ヶ月上乗せし、年間で4.6ヶ月を勝ち取ることができました。このことは、組合員皆様が春闘諸行動を共に取り組んできたことで本部が交渉を強化した結果であると思っています。2024春闘についても、引き続き、連合・公務労協等の基本方針を踏まえ、共闘組織と共に取り組んで参ります。

結びとなりますが、十干十二支でいうと甲辰とのことです。「甲」は十干のはじまりにあたり、生命や物事のはじまりを意味しており、「辰」は草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子を表しているそうです。小田原支部と致しましても、組合員皆様と共に、ますます発展する年になるよう、2024春闘やディーセント・ワークの実現、職場環境整備等、様々な取り組みを進めることにより「組合があつてよかった」と実感できる運動を進めていきます。

今年一年、組合員並びにご家族の皆様の益々のご健勝とご多幸を祈念しまして、年頭のごあいさついたします。今年もどうかよろしくお願いいたします。